

島根県立図書館からの報告

～対象期間：平成30年11月～令和元年10月～

島根県立図書館
資料情報課 郷土資料・調査係
大野 浩

1 全般

平成30年度までは、平成26年策定「島根県立図書館振興計画」に沿って運営。
平成31年3月に「島根県立図書館 運営方針および活動計画」を策定。

平成31年度（令和元年度）からは

「郷土の歴史・文化を伝える図書館」を、目標の一つとして、
以下3点の取組の方向性を示して、活動を進めている。

- (1) 郷土資料の収集・保存
- (2) 郷土資料の提供・活用
- (3) 郷土レファレンスの充実

(1) で、「郷土資料保存計画」を策定することを盛り込んでいる。

※別紙資料「島根県立図書館 運営方針および活動計画」の郷土資料関係部分と概要版

2 展示

(1) ミニ展示

- ・ No. 34 島根県立図書館要覧（昭和43年）
（展示期間 平成30年10月5日～12月27日）
「島根県立図書館建築50周年にちなんで新館開館時の要覧を展示」
- ・ No. 35 勉齋遺稿
（展示期間 平成31年1月5日～令和元年7月31日）
「山村勉齋は広瀬藩儒及び島根県師範学校講師を勤めた漢学者。本書は門人である並河理一郎がまとめ、1919年（大正8年）に刊行」
- ・ No. 36 雲州餘彩
（展示期間 令和元年8月1日～ ）
「相見香雨（本名繁一）は、松江出身の美術史学者。本書は大正時代に、松平家をはじめ出雲国内所在の優秀絵画を木版印刷した大部な豪華版」

(2) タイアップ企画展（県庁各課との連携のうち、主な郷土資料関連分）

【ホール展示】

- ・島根県・中国寧夏回族自治区友好交流25周年記念展（文化国際課、平成30年11月）
- ・「北斎 永田コレクションの全貌公開〈序章〉」のみどころ（美術館、31年2月）
- ・県立図書館建築50周年記念展（県立図書館、31年3月）
- ・しまねの子育て（こども・子育て支援課、31年4月）
- ・アクアス夏の特別展「太古からつながる海」（しまね暮らし推進課、令和元年7月）
- ・しまね建築・住宅コンクール（建築住宅課、元年8月）

【その他展示（2階回廊、1階階段下、1階時計下など）】

- ・古代歴史文化賞（古代文化センター、30年11月）
- ・2018「しまねの森林」フォトコンテスト入賞作品展示（林業課、30年12月）
- ・ラムサール条約湿地宍道湖・中海（環境政策課、31年3月）
- ・島根県の地産地消（しまねブランド推進課、31年3月）
- ・石見銀山啓発パネル展（文化財課、元年6月）
- ・県民いきいき活動（社会貢献活動）（環境生活総務課、元年7月）
- ・しまね家庭教育応援プロジェクト（社会教育課、元年7月）
- ・島根スサノオマジックを応援しよう！（しまね暮らし推進課、元年8月）

3 「郷土資料保存計画」策定

5カ年の活動計画として、今年度策定作業中。

4月から調査作業、課題整理、方向性確認を行い、現在文案作成中。

1月頃公開予定。

○現状について（含む調査結果）

・郷土資料を含む蔵書保存環境

現用館は、昭和43年に建築、昭和58年に新館増築（書庫など）。

平成10年代以降、玄関ホールへの書架設置、学習室の一部を書庫に変更、固定書架を集密書架に転換、書庫の棚板間隔変更等、収容能力拡大策を取った。

郷土資料について、特に古文書類は1箱づつすべてチェックをし、目録整備、保存処理が行われているか確認をした。

4万点を超える古文書等歴史資料の多くは図書と同じ書庫で保存されている。

新たに資料を保存するスペースはほぼなく、一般新聞や図書の除籍・廃棄を行いつつ蔵書管理を行っている。温湿度管理、虫害対策が不十分な箇所がある。

・古文書等の整理

未整理の古文書が全体の約4割、500箱以上ある。

郷土資料・調査係正規職員3名、嘱託職員5名のうち、古文書整理を担当するのは嘱託1名であり、カウンター勤務等との兼務。現在の作業ペースで保存処理、目録整備を進めた場合、完了するのは約22年後と試算。

○方向性について

現施設、現有職員、5年間という期間で行うことを前提として、計画策定をしているが、実行には作業量やスペースを考慮すると制約は大きい。

以下のことを重点に置き、計画を遂行していきたいと考えている。

- ・未整理である古文書の目録作成、保存処理を優先すること
- ・保存環境を維持すること
- ・外部協力者との連携を模索すること
- ・歴史資料のデジタル化及び公開については、継続して行うこと